

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙2)

II 地域の現状・課題

1 北海道新幹線の札幌開業やポストコロナを見据えた交流・定住の促進

- ・北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）の早期完成に向けて、引き続き積極的な要請活動を行う必要があります。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により減少した観光客の回復に向け、首都圏や東北、アジア圏を中心とした海外を対象にPR活動を行う必要があります。
- ・受入体制の強化や二次交通の利便性向上、更なる広域観光の促進に取り組んでいく必要があります。
- ・日本遺産などに認定された歴史や文化を活かした誘客を促進する必要があります。
- ・農漁村地域への誘客を促進するため、グリーンツーリズムやマリンツーリズムの連携を強化する必要があります。
- ・歴史や文化などの地域資源を活かした着地型観光や、通年型観光を推進するため、ガイド人材の育成など地域の受入体制を整備する必要があります。
- ・外国人観光客の誘客促進に向け受入体制やプロモーションを強化する必要があります。
- ・地域おこし協力隊を含む市町における移住・定住の取組について、認知度を高める必要があります。
- ・地域おこし協力隊が任期満了後も地域に引き続き住んでもらえるよう、取組を進める必要があります。
- ・地域の魅力を効率的かつ効果的に情報発信することにより、ワーケーションを推進するとともに移住・定住の取組に繋げる必要があります。
- ・ワーケーション等で活用できるコワーキングスペースやサテライトオフィス等の必要な施設等を整備する必要があります。
- ・ワーケーション時の余暇を充実させるための観光メニューを開発する必要があります。
- ・若者の定着や将来のUターンを促すため、若年層のシビックプライド（地域への愛着）を醸成する必要があります。

2 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組の推進

- ・気候変動対策に係る各種事業と連携しながら、地域が一体となって「脱炭素」に取り組む必要があります。
- ・森林環境譲与税等を活用し、吸収源対策として森林を適正に管理していく必要があります。
- ・豊かな自然環境と調和した脱炭素型の地域づくりに向けて、道南特有の気候や環境を活かした再生可能エネルギーの開発・導入を促進する必要があります。
- ・洋上風力発電事業は、協議会構成員や地域の関係者の理解が重要となることから、丁寧に議論を進めていく必要があります。
- ・ラムサール条約湿地に登録されている大沼の水質改善など、環境の保全に努める必要があります。
- ・自然環境を守るため、生物多様性を保全する必要があります。
- ・藻場の保全・創造やCO2吸収量の評価等は、関係機関と連携し取組を進める必要があります。

道南連携地域「地域づくり推進ビジョン」

(別紙2)

II 地域の現状・課題

3 持続可能な農林水産業の確立

- ・農林水産業の効率化・高度化を図るため、ICTを活用したスマート農林水産業を推進する必要があります。
- ・収益拡大のため、高収益作物の更なる生産拡大・新規導入を促進する必要があります。
- ・経営規模が小さくほ場も狭小なため、担い手への農地の集積・集約化を進め、生産力・競争力の強化に向けた農業生産基盤を整備する必要があります。
- ・農業水利施設等の老朽化による機能低下が懸念されており、適切に補修・更新する必要があります。
- ・災害に強い農業の推進に向け、農地及び農業用施設の災害を防止するための施設を整備する必要があります。
- ・スルメイカなど主要魚種の漁業生産が落ち込んでいるため、海洋環境の変化に対応した栽培漁業を推進することで、漁業経営の安定化を図る必要があります。
- ・道南産品の付加価値向上などのならなる磨き上げや、販路拡大への支援に取り組む必要があります。
- ・地域の農産物の収益性向上を図るため、ブランド化や付加価値向上などに取り組む必要があります。
- ・道南の地域材の普及に向け、HOKKAIDO WOODなどのブランド化や更なる普及啓発に取り組む必要があります。
- ・海洋環境の変化等によりブリが増えるなど、漁獲に変化が見られることから、ブリの消費拡大に向け、新たな加工品の開発などに取り組んでおり、認知度向上に向けた取組を一層推進するなど、引き続き、付加価値向上や未利用資源の有効活用などに取り組む必要があります。
- ・農林水産業の就業者が減少しているため、担い手を育成・確保する必要があります。

4 安心して暮らせる地域社会の維持

- ・避難所運営などにおいて、感染症に対応した体制を確立する必要があります。
- ・災害に強い地域づくりに向けた取組のほか、地域の防災リーダーの育成、自主防災組織活動カバー率の向上など、ハード・ソフト両面で地域防災力を強化していく必要があります。
- ・希望する誰もが結婚や子どもを生み、育てることができる環境づくりを推進する必要があります。
- ・住み慣れた地域で将来にわたって必要な医療を安心して受けられるよう医療体制の確保を図る必要があります。
- ・地域包括ケアシステムの整備など、住民の健康づくりを進める必要があります。
- ・医療・福祉従事者の確保・離職防止に取り組む必要があります。
- ・医療機関によって人材や資材等の条件が異なるため、実現可能な範囲で協定を締結する等、実情を考慮しながら体制を整備する必要があります。
- ・人口減少や新型コロナウイルス感染症の影響によりバスやフェリーといった公共交通機関の乗客数が減少していることから、未来技術も活用しながら地域交通の維持を図る必要があります。
- ・人口減少や高齢化進行に伴う生活インフラの減少や生活交通手段の不足、空き家の増加などの問題について、地域の実情に即して、未来技術も活用しながら対応していく必要があります。
- ・物流や交通のネットワーク充実や救急患者の迅速な搬送にも寄与する高規格道路を整備する必要があります。
- ・ヒグマとのあつれき低減を図るとともに、ヒグマに対応できる人材を育成する必要があります。

II 地域の現状・課題

5 地域経済の活性化と雇用の創出

- ・さまざまな商環境の変化等に対応するため、事業者の各種事業活動を支援する必要があります。
- ・水産・海洋に関する試験研究機関や大学、関連企業が集積している地域特性を活用し、産学官金が連携して行う新製品や新技術の開発を促進する必要があります。
- ・バラエティ豊かな地域産品が調達可能で、かつ、大学・試験研究機関の集積地、交通物流の拠点、道内有数の観光地であるといった有利な地域特性を活かして企業誘致を促進する必要があります。
- ・地域の産業を担う次世代の人材が不足しており、人材を育成・確保する必要があります。
- ・新規高卒者の雇用促進や定着に向け、就職段階でのミスマッチを解消する必要があります。
- ・障がい者が能力を十分に発揮することできるよう職場環境づくりを進める必要があります。
- ・外国人材受入れに関する制度や多文化共生に関する理解が不足していることから、セミナー等の開催を通じて、地域の意識醸成を図る必要があります。

6 縄文遺跡群を活かした地域振興

- ・世界文化遺産である「北海道・北東北の縄文遺跡群」をはじめとして、管内各市町が有する縄文文化の魅力や価値を広く発信する必要があります。
- ・縄文関連イベントなどで縄文文化に触れる機会を確保するなど世界遺産についての理解促進を図るとともに、観光資源としての活用を通じて地域における賑わいの創出や地域の振興に繋げる必要があります。
- ・アドベンチャートラベルのコンテンツへと繋がられるよう、観光資源としての魅力を高め、受入体制や二次交通の整備などを進める必要があります。